

ANDY SPADE

presents

THE
CLASSIC HANDBOOK
for
CITY BOYS



The point is to be yourself. Find your own rhythm like jazz. Your mind is more important than clothes. If you can find what make sense for you, you can look good. That's classic!

クラシックは自分らしくアップデートしたらいい。

Wear classics in your own way.

Andy's rule: 2



有名な有名人の
Tシャツをもらった服を着る。
I wear famous people's
T-shirts that I got as gifts.



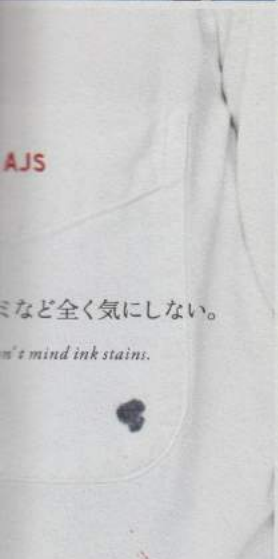
01
デザートブーツを
ハサミで1インチ短くする。
I cut my desert boots one inch shorter
with scissors.



666を入れない不吉な数字を
グラフィックする。
I don't put 666 in my shirts
because it's unlucky. I graphic
design my shirts with 666.



02
クライミングロープを
カジュアルな靴紐として使う。
I use thin, colored climbing rope
as laces for my casual shoes.



シミなど全く気にしない。
I don't mind ink stains.



03
デザートブーツのかかとに、
娘によるペイントを施す。
I had my daughter paint a stripe
on the back of my old desert boots.

- 01 少し短くしたほうがバランスがいいと思って切ったんだ。くろぶしが少し見える感じにね。ショーツをよくはくのだが「人生は短い“ショーツ”だからね」、それにもよく合う。
- 02 色がいいものもあるが、それ以上にロープに耐久性があるところがいい。決して壊れないんだ。今やクラークスのワラビーは誰しもが履いている。でもこういう小さなことを加えることでオリジナリティが出る。大きなジェスチャーではなく、こういう小さなことで十分だ。
- 03 娘がペイントしてくれてね。絵がうまいなと思ったから頼んでみたんだ。僕が彼女の靴にペイントすることもあるし、娘との時間の過ごし方のひとつなんだ。
- 04 リチャード・プリンスのサインをTシャツにもらった。彼は色々な人のサインを集めているんだけど、それに対して逆に彼のサインを僕がもらったら面白いなと思ったんだ。馬鹿げているだろ？自分ができる最大限のバカをするのが好きなんだ。身内だけがわかるジョークのようなものさ。
- 05 666はサタンを意味する。普通はモノグラムは自分のイニシャルを入れて個人を主張したり、自分を誇示するような言葉を入れることが多いが、ここではあえて自分を卑下してジョークにしているのさ。これを見た人たちに「これはなん？」と考えさせるんだ。子供時代の住所の番号を入れてもいいし、偉人のイニシャルを入れてもいい。何を入れてもいいんだよ。
- 06 ベンのシミなど気にしないよ。むしろわざと残して、人にこの人はどうしちゃったんだろ？と考えさせるのが楽しいんだ。
- 07 シャツの“666”と同じでジョークだ。ベルトのような小物に小さな遊びを施して、自分を楽しませるツールにもしているんだよ。
- 08 〈ラルフ ローレン〉のシャツとヴィンテージのシャツを縫ってくっつけたもの。新しいものと古いものを合わせるが多い。まるで互いに助け合っているようだね。よく見ないとわからないが、その不完全な縫い代がいい。大量生産されたものは好きじゃない。自分流に作られたものがいい。ショーツと靴も同じように作ったものがあるよ。
- 09 一見普通に見えるのに、よく見ると妙というのが好きなんだ。これはスリフトストアで6枚セットで売っているのを見つけて買った他人のイニシャルが入った〈ブルックス ブラザーズ〉のシャツ。他の誰も持っていない点ものだ。このシャツを作った人はおそらく職を解雇された人だと思うんだが、今そのシャツを僕が持っていて、「僕を解雇された人からしかシャツを買わないんだ」なんてジョークを友達に言ったりしている。
- 10 僕がやっていることはアートムーブメントからインスパイアされたことが多いんだが、これは脱構築主義からきているアイデアだ。アートからアートを取り除いたり、アート自体を排除するような、オノ・ヨーコがやったようなフルクサスの運動のようなもの。ラウシェンバグのクーニングのロゴを除いた作品「消されたデ・クーニング」と同じことだ。初期の頃は僕もニューバランスが大好きだったんだけど、今やみんなが注目しているから、その象徴を消してみたいという試みなんだ。つまり、ブランドからブランドを除いたということ。匿名にしようんだ。よく人はこの靴を二度見するよ。取り除いたNの方向を変えてZにしてもいい。僕はアディダスの靴のスリーラインを取り除いて、代わりにニューバランスのNをそれにくっつけたことさえあるよ。ブランドのアイデンティティを取り入れるんじゃないで、自分自身のアイデンティティをアイテムに入れ込むんだ。
- 11 〈ブルックス ブラザーズ〉で見つけたシャツだ。左胸にあるはずのポケットが間違って右に付いてしまっている。こういう不良品を見つけたのが好きなんだ。値引きして売られていることが多いが、僕に言わせたらむしろ普通よりも高い値付けにするべき。だって一点ものだよ。
- 12 ある日、ポケットスクエアが見つからなかったんだ。だから代わりにビニール袋を入れてみたわけだ。ほとんど誰も気づかなかったよ。妻のケイトは気づいて「何やってんの？」と笑ってたよ。「The Waverly Inn」でのディナーパーティーではグレン・オブライエンだけが気づいていたね。そもそもポケットスクエアが嫌いなんだ。あれはみんながやるからこうするというものだろう？だから自分で変えていくんだ。この方法はほとんどの人が気づかないのがいい。昨晚ディナーパーティーがあったんだけど、そのときはインデックスカードを代わりに入れてみたよ。

僕は自分が心地よく思えることをしているだけなんだ。

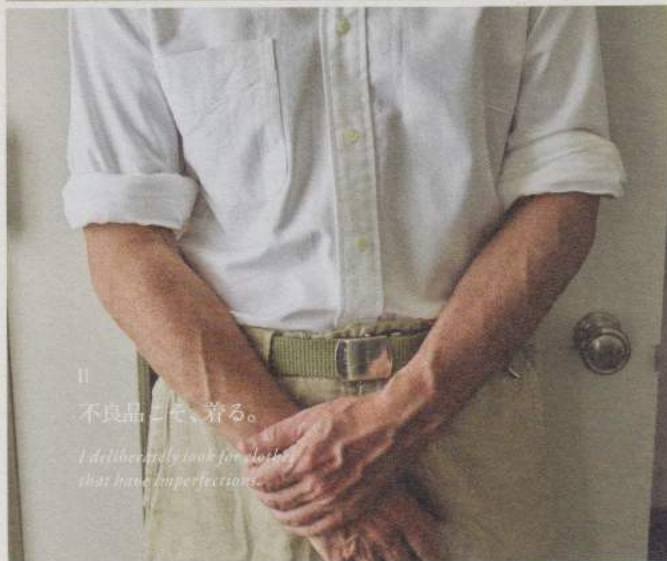
クラシックを極めてパーソナルなものにしているにすぎないし、ジョークみたいなものでもある。完璧にキメすぎたり、ファンシーすぎるのは周囲にいる人を萎縮させることもあるから好きじゃない。ましてや、自分を重要な人間であるかのように見せるだけの着こなしなんて退屈だと思わない？



10
ニューバランスの「N」を
剥がしてはく。
I remove the N from New Balance shoes.



07
ベルトのバックルに「敗者」と入れる。
I monogram my sterling silver belt buckles with LOSER.



11
不良品こそ、着る。
*I deliberately look for clothes
that have imperfections.*



08
2つの違ったシャツを
縫い合わせて着る。
*I make my own shirts
combining 2 different shirts.*



12
たまにビニール袋を
チーフとして使う。
*Sometimes I use colored plastic bags
as pocket squares.*



09
他人のイニシャルが入った
古着を着る。
*I wear shirts
with other people's monograms on them.*

Most Classic Dress

僕は小柄だからいつも1インチのインディアンパンツの両サイドを縫めるようにしている。そうするとパンツがまっすぐにになり、ドレスパンツがカウボーイの折れ袖もまっすぐに真ん中になる。パンツの両側の縫いはちょうどお尻の上にくるまで、足首まで縫い合わせる。袖はシャツのストープを1/4インチ縫わせるのが好き。袖に縫い合わせると、共和党の政治家たちはみんな袖が長くなると思うね。きっと君は僕を僕でスーッと手が増えられていくことに気づかないだろうけど、このようにテーラーリングをハイスクールの服からしているんだ。でも、自分に合うパンツは選ぶのは難しい。体のサイズが違うから裁縫の事案にも不安定な。僕は他人にファッション・アドバイザー(アドバイザー)を要する人たちが大嫌いなんだ。僕で君と一緒に歩けばいいのは、自分に合うスタイルを見つけることだからだ。それはとてもインディアンパンツ(輸入品)なことのはずだ。

- Suit: Thom Browne
- Shirt: Brooks Brothers
- Tie: Jack Spade
- Shoes: Alden



Casual Mix

トレンドは経年変化はないんだ。その期間だけのものも、好きでもない。60年程を振り返っても変わらない。50年後を生きている人が今の僕を見ておんなじシャツだと思おうようなタイツみたいなものがいい。特定のアイテムはただただシンプルで、それこそ僕が好きなものなんだ。ま自身は「ブルックスブラザーズ」だ。もし何かをそこに追加したければロケーマッチになってしまおう。逆にそこを何かを取り除くと、物足らなくなる。すべての中で正しいプロポーションのものを見つけるのは素晴らしいことだ。そしてそれは費が掛かる。機能性があり、持ち出しなければならぬ。服というのは揃っておくものではないんだ。



- Jackot: Band of Outsiders
- Pants: Vintage army pants
- Shirt: Black Fleece By Brooks Brothers
- Tie: Brooks Brothers
- Shoes: Clarks

僕なりのクラシックな着こなし。

My classic styles

Andy's rule: 3

父や祖父、そして多くのスケーターから影響を受けた幼少期を経て、長い時間をかけてとり着いた、僕なりのクラシックな着こなしの例である。何をどう合わせるかは大事なことでなく、いかに服以外のパーソナリティを形作っていくかが重要なことなんだ。

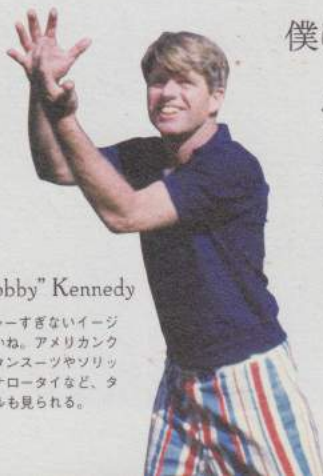


George Plimpton

ジャーナリストらしいアイビーリーグな着こなしで、自分のことを気にしていない感じが着こなしがいいところだ。

Spencer Tracy

キャサリン・ヘパバーンとは名コンビだ。直接的なマスキュリンなアメリカンスタイルだ。屈折してないそのスタイルがいんだ。



Robert F "Bobby" Kennedy

JFKの弟はファンシーすぎないイージーな着こなしがいいね。アメリカンクラシックなソフトタンズーツやソリッドシャツ、'60sのナロータイなど、タイムレスなスタイルも見られる。

僕にとってのスタイルアイコンたち。

James Stewart

ヒッチコックが監督の映画「裏窓」のジミー・スチュワートのスタイルが素晴らしいね。ここで出てくるクラシックなパジャマスタイルが最高なんだ。



Weekend Studio

質の高いヴィンテージが好きだ。クラシックなシャツも好きだ。ハイウエストのパンツも好き。ローウエストやスキニージーンズは好きじゃない。同時代的なスタイルは振り返って見て滑稽に思えるものもあるだろうし、特定の時代を思い起こさせてノスタルジックだったりもするが、僕は20年後にそのスタイルをしている自分を見るのは嫌だね。ヘミングウェイがベルボトムをはいて、花柄のシャツを着て歩き回っているのを見たりはしていないのと同じことだ。ちなみに、このベルトは友人が作ったもので、クライミングロープ製だ。カラフルな色と強度のある機能性がある。必要とあらば自分たちで斬しいものを作ったり改善したりする。周りをみると、それを欲しがっている人が結構いたりしてニーズがあったりする。

- Jacket Vintage
- Shirt Brooks Brothers
- Pants Levi's
- Shoes Clarks



家族や友人との思い出が詰まった小物。



アーミーにいた祖父を思い出から持ってるアーミーウォッチ。

'60sの(ロレックス)は祖父からもらったもののだが、一度祖母に取り上げられて他のいとこの元になってしまった。でもそれが盗まれて大騒ぎになったところ、なぜか盗んだ相手から僕のところに戻ってきていたんだ。でも今度は僕がこれをなくしてしまった。でも奇跡的にまた見つかったもんだから、僕はこれをいどこにあげることにした。モノは自分よりも大事にしてくれる人にあげるようにしているんだ。

このベルトは、僕が [VOLVO] 好きと知って友人がある日ギフトとして贈ってくれたものだ。



Formal Dinner

フランク・シナトラのようなクラシックなタキシードが好きなんだ。ダブルブレストのスーツやアスコットやウインザータイなどは好きじゃない。チャールズ皇太子などの血筋のいいイギリス人にはよく似合うスタイルかもしれないが、僕が着たらフェイクに見えるだろうね。そういう「そぶり」のあるルックスは好きじゃないんだ。僕もスタイルを形成するまでには時間がかった。僕は20代か30代になるまで直せなかったな(ブルックスブラザーズ)で購入してたけど、そこまで直すお金がなかった。だから完璧なフィットではなかったね。ワイドラベルのジャケット。ダブルブレストのコートは似合わないから着るのをやめた。70年代の頃だ。とにかく、何が自分にとって心地いいのか、何が自分に似合うものなのかを見つけるのには、しばし時間がかかる。

- Tuxedo J.Crew
- Shirt Ralph Lauren
- Bowtie Jack Spade
- Shoes Alden



Weekend Park

僕はあくまでもその人のパーソナリティのほんの一部分でしかない。だから、僕の第一印象が「この人は別に何をやってる人なんだ」というものがある。僕まではいいんだ。僕がどのように振る舞い、いかに人に対して優しくしているか、知性があるか好奇心旺盛かといったことは僕が知る。僕は自分の人格を反映する。もし君の振る舞い多くを誤っていただけとしたら、それは君が望むことより、僕が知っているということになる。それよりもカルチャーについて知ることも、読書をして知識を得ることが大事だ。だから、アウトドアウェアを履いて出てくるんだ。

- Jacket Columbia
- Shirt J.Crew
- Pants Vintage German military
- Shoes New Balance



George Will

ピューリッツァー賞も受賞している政治コメンテーターだ。ジョージ・ウィルはコンサバでトラディショナルな、クラシックな権威的なお手本だよ。



Woody Allen

コミカルで風刺の効いた映画とシグロをする「少し乱れてはならないクラシックなアメリカンスタイル」。



John Ford

ジョン・フォードは西部劇映画「駅馬車」などの監督だよ。クラシックアメリカンウェスタンカジュアルの代表だね。



William Weld

ウェルドはアメリカの政治家らしく、わかりやすいブルックスブラザーズスタイルを体現しているんだ。



柄はピュアでないといけない。

The pattern needs to be pure.

Andy's rule 4

タッターソールはスクエアが小さなものもいい。スクエアを大きめにしたウインドーベンというものもあるが、あれはウォール・ストリート風の“そぶ”があって好きにはなれない。ギンガムも小さいものもいい。歴史的にもギンガムは小さいものなのだが、見せびらかすような大きい柄のものもあって、これも全く好きになれない。タータンチェックも本物と呼べるものは10くらいかないんじゃないかな。ベストなグリーン、ブルー、イエローといった色を持って妙な解釈が加わってないものがよく、マドラスに至ってはインド製ウォッシュドカラーかピュアな色でないといけない。新しいマドラスというのは存在しないのだ。いいマドラスは昔から変わらず続くピュアなものだけ。僕はクラシックなものに何かしらの手が加わったものは好きになれない。(スリーピー・ジョーンズ)でもピュアな柄だけを使うようにしているんだ。

(スリーピー・ジョーンズ)のパジャマはスチュワートブレイドタータン柄だね。柄は常にオリジナルに忠実にする。変化球はナシだ。



レキシントンアベニューの71と72丁目の間にある店でこのマドラス柄の傘を見つけたんだ。そこはバブルガムとビールと傘がごっちゃんに売られているとてもNY的な店なんだ。

マンハッタンのクラシックな店を紹介しよう。

Let me introduce my favorite classic stores in Manhattan.

Andy's rule: 5

ここに挙げたのは、クセの強いキャラクターのある店ばかりだ。
マーケティングで作られたものではなく、パーソナルに作り上げられた店である。
自分のためにやるというアティチュードも忘れてない。
完璧じゃないかもしれないが、それもアメリカらしくて面白いぜ。



Landmark Bicycles

クラシックなヴィンテージバイクが揃う店だ。「ジャック・スベード」の店頭ディスプレイ用に何台か買ったことがあるんだ。○43 Avenue A, New York, NY 10009



C.O. Bigelow Apothecaries

1838年から続く歴史あるファーマシー。住んでいる誰もが知っているニューヨークのトラディショナルなお店のひとつ。○414 6th Ave., New York, NY 10011



Bonpoint

娘の服は「ボンボン」でよく買っていた。これはパリのブランドだよ。子供服は柄がついたものが多いけれど、ここはシンプルな方がいいんだ。○1269 Madison Ave., New York, NY 10128



Second Hand Rose

一点ものの壁紙がたくさん揃っていて、うちはヴィンテージのフラワープリントのものを自宅用に買った。○Hotel Chelsea 222 West 23rd apt. #203.



John Derian Company

NYのアーティスト、ジョン・デアリアンとはいい友達なんだ。シグネチャーのペーパーウェイトがよくて、実際に僕も持っているんだ。ヴィンテージも揃っていて見応えがある。○6 E 2nd St., New York, NY 10003



Strand Book Store

言わずもがな、老舗のブックストアだ。よくペーパーバックを買ったりしているが、3階にあるレアブックスのセクションも間違いないね。○828 Broadway, New York, NY 10003



Jack's 99 Cent Store

アートに使うものを見つけるためによく行くのが「99セントストア」さ。普通の店にはない廃盤になったデッドストック品なんかもある。○16 E 40th St., New York, NY 10016



Bodega

アート用のものを買うこともあれば、チップスなんかもよく買うね。ダウントウンにあるものは特にニューヨークらしい。○102 Clinton St., New York, NY 10002



Brooks Brothers

言うまでもなくアメリカのアイコンを代表するのが「ブルックス ブラザーズ」だ。アメリカで最も古く、最もクラシックなブランドなんだ。○1270 5th Ave., New York, NY 10020



Paragon Sports

1908年から続くユニオンスクエアの近くにあるスポーツ用品店。まさにクラシック。すべてのスポーツ用品が集まっているデパートのようなところだ。○867 Broadway, New York, NY 10005



Wyeth

ミッドセンチュリーの家具とスツール椅子のお店。シンプルだけど、なかなか他では見つけられないピースがあるんだ。○533 Canal St., New York, NY 10013



Kiehl's Since 1851

シンプルなパッケージが特徴的な化粧品ブランド（キールズ）のメイド・イン・ニューヨーク。僕はローションを使っている。○109 3rd Ave., New York, NY 10003



Aesop West Broadway

すべて植物由来成分で作られたボディケアブランドだ。スタイリッシュなデザインがモダンでクラシックかと思う。店舗は複数存在。○43 W Broadway, New York, NY 10012



Tent & Trails

クライミング系の商品を買うならここがベストだ。アウトドア用品の中でも特に本格的なものはほとんどここで揃えられる。○21 Park Pl., New York, NY 10007



Bergdorf Goodman

デパートとしての歴史が素晴らしいし、やっぱりセレクトが面白いと思う。スタッフのサービスも丁寧で落ち着く。○754 5th Ave., New York, NY 10019



今も昔も、好きなものは変わらない。

My favorite things have never changed.



キーキャップ

Andy's rule: 6



BANCROFTの
ヴィンテージテニスシューズ



PATAGONIAの
フリース



PATAGONIAの
シェル



変わったのは髪型くらい。

僕がスタイルにおいて影響を受けたのは、父や祖父だ。ミシガン州で育ったんだが、そこはミッドウェスタンプレッピーと呼ばれる人たちが多く住んでいて、彼らはとても謙虚でスマートで面白い人たちだった。たとえハーバードやイエールを卒業していてもそれを口外しないようなね。僕の父は広告会社に勤めていた。テレビドラマ「マッドメン」のキャラクターは着こなしを含め、まさに父そのものだった。そんな彼がクリスマスに僕らにくれたのは、〈ラコステ〉のシャツやモノグラムが入ったオックスフォードシャツ。祖父も同じような着こなしをしていたよ。'70年代には奇抜な格好をしている子供が多かったけれど、幼少期も特別に見えるような着こなしをする子供だと見られるのは嫌だと思っていた。それも今と変わらない考え方さ。ちなみに、左が僕で、右が弟だよ。



PATAGONIAの
ダウンジャケット



REIの
マウンテンパーカ



SOUTH2 WEST8の
マウンテンパーカ



BIRDWELL BEACH BRITCHESの
スイムパンツ

L.L.BEANの
レインブーツ



そもそも僕はリネン、コットンなどの天然素材が好きなのだが、スポーツやアウトドアのときは化学繊維も取り入れる。そして商品に対して研究を重ねているオーセンティックなブランドを選ぶ。プロのインストラクターたちが長年の経験でどれがよくてどれがだめかをわかっているように、商品に対して研究を重ねているブランドこそ信用できる。色がいいからといって、マーケティング会社が手掛けるスポーツ用の服を買ったりはしない。見た目じゃない、機能性で選ぶんだ。

また、同じシャツが2つあったら、何か強い信念を持っていたり、いいことをしている会社のほうを選ぶ。(パタゴニア)と仕事をしたとき、イヴォン・シュイナードは、お客さんにはお店に長居してほしくない、むしろお店でショッピングなどせず、外に出てロッククライミングをしてほしいんだ、と言っていた。こういうことはほとんどのオーナーが言わないことだ。通常は店でできるだけ時間を過ごしてもらってたくさん買ってもらいたいと思うものだからね。また、彼が一

生使えるものを買ってほしいと言うのも、いわゆるビジネス哲学と相反するものだ。でも、このような哲学が大事なんだ。10年以上たっている商品のジッパーやボタンが壊れても親切に直してくれたり、環境に対しても本気で取り組み、政府に掛け合って労働基準をよりよいものに変えたりもしているブランドが好きなのは、今も昔も変わらない。それぞれのブランドや企業がどのように始まり、何を達成しようとしているのかを知ることもクラシックの手始めだ。

古いクルマの話をしようか。

Let's talk about my favorite classic cars.

Andy's rule: 7



BMW2002tii

まるで箱のようなシェイプが特徴的だ。古いロードカーで、ドイツの渋滞も切り抜けられる小さめのクルマとして造られている。

僕はクルマのスピードやエンジンの馬力には興味が無い。ランボルギーニやマセラティのようなファンシーなクルマにもまったく興味が無い。興味があるのは、クルマのシェイプと美意識だけだ。このラインを見てみてほしい。子供でも

描けそうなシンプルなラインだろ？僕にとってクルマは彫刻のようなもの。ブランクシーの彫刻がシンプルなのにね。上等である必要も、いろいろなことができる必要もない。シンプルこそクラシックの強みだと言えるんだ。

BMW3.0

これはもう4年乗っているクルマだ。これは他と比べて少し曲線を描いているが、やっぱり四角い美しいシェイプだ。



Mercedes-Benz 1968 300SL

50代にちょうどいいクルマなんだ。スピードが出るかどうかなど気にせず、ただただクルマの美しさを楽しめる仕上がりだ。BMW2002tiiの大人版といったところだな。



Volvo P1800 Coupe

とても好きなクルマだ。座ると座高が低くなりすぎて、乗りこなすことができなかったけどね（笑）。リアスタイルが少しだけ別のように傾斜して上がっていくデザインがクールだ。



Toyota Land Cruiser

これも大きな箱のようなスタイルだ。アメリカの砂漠や山にふさわしい車種もある。金持ちのカーコレクターが気にも留めないようなクルマなのがいい。



Chevrolet Corvette Stingray

これこそクラシックなアメリカンコルベットだ。最前部が長く、美しい。絵がうまくない僕でも描けるようなシンプルな形なのがいいんだ。





よく飲み、よく食べる。

食べ物はなんでも食べる。LAY'Sの黄色のチップス(クラシック味)も大好き。でも、アルコールとはうまく付き合えなかったから飲むのはやめたんだ。今はゲータレード、コーラなどを主によく飲んでいるね。もちろん、水も欠かせないね。だから冷蔵庫の中は飲み物でいっぱいなんだ。ノンアルコールのデキーラがあったらいいのっていつも思ってるよ！

ニューヨーカーはこのように時間を使う。

This is how I spend my time.

Andy's rule: 8

ランニングやスポーツをして、体をヘルシーに保ちながらアート制作にも没頭する。

日々過ごす中から得たアイデアはあらゆる場で発揮できる。

大先輩であるグレン・オ布莱イエンは出版、映画、演劇、スタンダップコメディ、広告と5つのフィールドで仕事をしていた。

自分らしく生きて、さまざまなことを試していいということを僕は彼から学んだんだ。



さまざまな遊びを知っている。

こは夏の間1か月くらいバカンスで行くこともあるんだが、そのときはブヤード(葡萄畑)をロードバイクで駆け巡るんだ。スケートボードはいちいち持ち歩いて、どこでも滑ってる。僕のスタイルのすべてはスケールチャーから学んだといってもおかしくない。スケーターの哲学っていいは、結局、格好ではなく、いいスケートができるかどうかが大事なんだ。

スポーツをするときだけは、ソックスをはく。

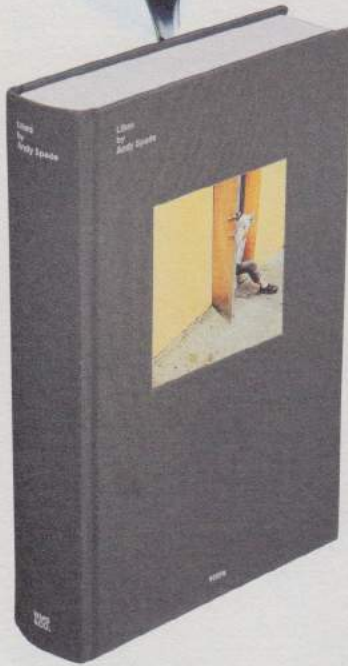
普段はほとんどソックスをはかないんだ。シューズをはくことが多いから、そのときに靴とパンツとのコントラストがあったほうがいいと考えている。でも、スポーツをするときは別だ。決まって(スリービー・ジョーンズ)のシンプルでクラシックな2ストライプのソックスをはく。テニス、ランニング、水泳(笑)のときは必ずソックスをはくね！





Instagramを本気で更新する。

僕のメンターのひとりにはグレン・オブライエンだ。彼こそが写真を撮り続けるようにと背中を押してくれたんだ。写真を撮り始めたのはInstagramがきっかけなんだけど、僕はただのアマチュアで、ライティングとか、テクニカルなことを気にしてはいたんだ。でも、彼は「そんなことどうでもいい。君の写真はとてつもないから、好きなものを見たら好きに撮ればいい」と言ってくれた。今は写真や映像を撮ったりするけど、そのすべてはこのInstagram (@andyspade) から始まった。投稿した写真を一冊にまとめた本『Likes』も出版予定だ。



スポーツには
リスペクトを。

テニスやマラソンをよく観戦しに行くんだけど、決してカジュアルになりすぎないようにしているんだ。スポーツやアスリートに対して常にリスペクトを払い、忠実でいることが大事だからね。だから、スニーカーではなく、ホワイトボックスにブレザーというのが正解だ。でもそれくらいでよくて、あまりきっちりしすぎるのもよくないね。ホワイトボックスも多少汚れているくらいがいい。もし、 Poloやゴルフなど権威ある試合を観に行くときは、それなりの格好をしなければならぬが、正直僕はそれが好きになれないんだ。スケーターだからね。白い靴くらいが限界だね(笑)。一応書いておくと、ブレザーは(トム ブラウン)、ホワイトボックスは(チャーチ)だ。



前に『ハーブギャラリー』で発表した作品は、サボテンに囲まれた室内に風船が浮いていて、時間とともに風船が落ちてサボテンによって割れるというもの。幼少期に見たドラッグ中毒だった祖父の注射針とそれによって壊れる自分の心を表現した。



LAで取り組んでいたのは、道に落ちている何げないものをフレーミングしてひとつのアートピースにするというもの。タイトルは『ストリートレディメイド』。近々NYのギャラリーでこうやって作った作品を発表する予定。

アートをしすぎて熱中症になった。アートの使う雑貨をよく買う「99セントショップ」で休憩中だ。



アートは見るだけでなく、作る。

夢中になっていることはアートを作ることだ。今までアートは見たり飾ったりするだけだったけど。そもそも10代の頃からコラージュを作っては友達にギフトとしてあげたりはしていたんだ。今取り組んでいるのはコンceptual・アートだよ。見た人に何かを考えさせるようなことさ。ここにもまた、偉大な先人たちがいて、皆さんの影響を受けているよ。

雰囲気も食べられるレストランへ。

Here are my favorite classic restaurants.

Andy's rule: 9



レストランにおいて大切なことは、自分たちの仕事に真摯に取り組み、いい料理を作ろうとしていることだ。でも、世界最高級の料理である必要はない。いい料理であればいいんだ。何より重要なのは店のムードだ。「雰囲気を食べることはできない」と友人が言っていたのだが、つまり、いい料理があるからといって必ずしもいい雰囲気までつくれるとは限らないということだ。クラシックなレストランには、特別なフイーリングがある。世界の料理を作る人はたくさんいるかもしれないが、ここに挙げたレストランのようないい雰囲気までは、なかなかつくれないものだ。



The Odeon

トライベッカにあるフレンチアメリカンレストランだ。内装のデザインもいいし、バーもいい。ここではよくステーキをオーダーしているよ。○145 W Broadway, New York, NY 10013



21 Club

カジュアルになったNYの中でもまだドレスコードがあって、タイ付きのフォーマルでないといけないステーキハウス。○21 W 52nd St., New York, NY 10019



Indochine

芸術家や批評家、学芸員、ギャラリストなどのアートワールドたちがよくいる古いフレンチベトナムのレストランだ。○430 Lafayette St., New York, NY 10003



The Ear Inn

昔住んでいたところに近い、ランドマークのビルにある1817年から続く古いバーだ。バーフードも気に入っているんだ。○326 Sprung St., New York, NY 10013



Serendipity 3

ウォーホルもお気に入りだったデザートブレイスで娘とよく行くんだ。アメリカらしい飾り付けのサンデーやパフェが食べられるよ。○225 E 60th St., New York, NY 10022



Bemelmans Bar

カーライルホテル内のバーだ。ジャズも聴けるし、ルドウィッヒ・ベメルマンによる手描きの絵が描かれた壁も美しい。○35 E 76th St., New York, NY 10075



The Waverly Inn

ウェストビレッジにあるアメリカン。とてもリラックスできるインティメイトな空間で、クラシックなディナーの場所だね。○16 Bank St., New York, NY 10014



JG Melon

気取ってなくて、ちゃんど美味しい。そのシンプルさがいいんだ。余計なものは一切入っていないクラシックなハンバーガーだよ。上の写真がそうだ。○1291 3rd Ave., New York, NY 10021



Serafina Fabulous Pizza

うちの近くにあるイタリアン。キッズメニューもあって娘もお気に入りなんだ。ここではピザをよく食べているよ。○1022 Madison Ave., New York, NY 10075



Raoul's

'70年代にはアートと引き換えにアーティストに無料で食べさせていたって歴史もあるスマートなレストランさ。○180 Prince St., New York, NY 10012



The National Arts Club

このプライベートクラブに参加して20年たつんだ。バーもあり、宿泊もできる。グラマシーパークへも鍵を使ってアクセスできる。○15 Gramercy Park S, New York, NY 10003



Spring Lounge

NYに住み始めた頃によく行っていたよ。ソーホーにある'20年代から続くバーで、当時はここでハイネケンをよく飲んだものだ。○48 Spring St., New York, NY 10012

本物は人を育てる。

Real art can educate you.

Andy's rule: 10

多くの本物のアートに触れることで学んだことは、人と違った見方をしてもいいということ。
 例えば、今僕が取り組んでいるフィルムメイキングとフォトグラフィーはとても個人的なことだ。
 人に批判される恐れもあるからもちろん怖さもあるが、いつだって自分を信じて挑戦するリスクを冒さないとけない。
 これらは、僕を勇気づけ、オリジナルであることの大切さを教えてくれたモノなんだ。



ジョン・バルデッサリの作品

これも20年前に手に入れた作品だ。彼の作品は3つ持っている。コンセプチュアル・アートの最高峰の先生で、リチャード・プリンスなどにも教えていた。ドットを入れることでイメージから意味を取り除いている。僕がニューバランスにしていることも同じなんだ。なんでもぶち壊していいんだということを教えてくれた人だね。



シンディ・シャーマンのプリント

初期のシンディ・シャーマン。彼女の人気が出る前に購入したものだよ。オックスフォードシャツを着ていて、髪にはスカーフ。そのルックが気に入って買ったんだ。



アルフレッド・ヒッチコックの「裏窓」

ヒッチコックの映画「裏窓」では、ジミー・スチュワートがパジャマ姿で出てくる。昔の映画を見返すと、彼らはなんてシックにパジャマを着こなしているんだろうと驚くわ。(スリーピー・ジョーンズ)のアイデアはこういうところから影響を受けている。家に帰ってスーツを脱いで、パジャマに着替えて家族に囲まれながら心地よくなったときにこそ人生がある。本を読んだり、考え事をしたりね。パジャマはそういうフィーリングを思い起こさせてくれる。だから一日中どんなときも着ていたいし、そういうリラックスした人生を送るべきだということを伝えられたらと思っているんだ。



初期の頃から制作されているアート。フィクションのひとつで娘を描いた「Betty」これは描いた絵をさらに写真で撮ったオブリットだ。20年ほど前に手に入れた。

ゲルハルト・リヒターのプリント



ウィリアム・エグルストンのプリント

5枚のエグルストンの写真を持っているんだが、彼はなんでもないものを撮ってはそれを美しくしている。モノを人とは違った捉え方で見ている。その感性に僕はとても共感できるし、彼の写真を見てると僕がやりたいことと似ていると思うんだ。僕も写真が撮れるかもしれないと思わせてくれた人のひとりだね。グレン・オブライエンが僕の作品をエグルストンに例えてくれたときは、キャンディストアの子供のように嬉しかったわ。「シャツはペーコン&エッグをちょっと遊んでみただけだよ。スリーピーのだ。」

Philip Roth [The Great American Novel]
 John Cheever [Oh What a Paradise It Seems]
 John Updike [S.]



アメリカンフィクションの本

ここにある本のほとんどがアメリカンフィクションなのだが、フィクションといながら手記に近いところがある。'50年代や'60年代は、アメリカ人の多くが解放された時期でクレイジーなことがたくさん起きていたり、多くの「普通になろうとする変わり者」がいて、そういう人たちの話には僕は勇気づけられるんだ。僕も自分のことを恥じて、ありのままでもいいんだというふうにな。



John O'Hara [The Time Element & Other Stories]
 Joan Didion [Play It As It Lays]



Jack Kerouac [On the Road]
 J.D. Salinger [The Catcher in the Rye]
 Philip Roth [Portnoy's Complaint]
 Strunk & White [The Elements of Style]
 Merriam-Webster [Dictionary]

Photo: Omi / Tomoko Omi / Tokyo Photo / Ritsuko / Omi / Mitsuho / Keisuke / Hiroaki / Omi / Illustration: ROMYU DUCK DESIGNS / coordination & text: Mamiya / Photo: special thanks: THE MOTT HOUSE TOKYO / Chief Buyer: Karin / Hatch / Editor: Tomie / Omi / Omi



ANDY SPADE

- 1962年 ミシガン州バーミンガムに生まれる。
- 1969年 アリゾナ州の砂漠地域に引っ越し、スケートカルチャーに傾倒する。
- 1974年 スケボーの大会に出るため、南カリフォルニアをめぐる。
- 1980年 高校を卒業後、ハワイでサーフィンをしたり、コロラドでスキーをして過ごす。
- 1982年 アリゾナで学業に復帰する。
- 1986年 ニューヨークに移住し、コピーライターとして働き始める。
- 1993年 〈kate spade〉をスタート。
- 1998年 〈JACK SPADE〉をスタート。
- 2007年 スタアデザインやブランディングを幅広く行う 〈Partners & Spade〉をアンソニー・スパーデュティと設立する。
- 2008年 友人のビル・パワーズ、ジェームス・フライと「ハーフギャラリー」をスタート。
- 2013年 パジャマブランド 〈Sleepy Jones〉をスタート。
- 2014年 インスタグラムに写真を投稿し始める。

アンディ・スパード | 〈Partners & Spade〉の創始者として、さまざまなブランドや企業のブランディングを行う。その傍らで、映像プロデューサーやアート制作など、アーティストとしても積極的に活動。雑誌「Fast Company Magazine」ではビジネスシーンでもっとクリエイティブな人物の一人として取り上げられたことも。9月30日までの期間限定で、〈Sleepy Jones〉のポップアップストア「SLEEPY JONES REST AREA」を、千駄ヶ谷の「THE MOTT HOUSE TOKYO」で開催中。